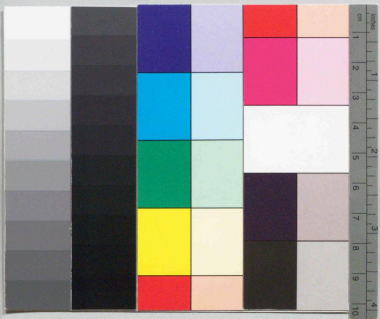


煎茶訣  
乾



愛知縣文化會館

嘉永庚戌八月新刊

百修深田先生述

木石居煎茶訣 全三冊

尾張書肆

文光堂梓

A 791

72

1-1

510831

自序

極高至大之論非難言也然  
於淺而深所深者其味也非  
能內於喉記而無形者不能思  
於心平亮明者其曰以禪而  
遂歸於自由也故此書所以內



題兒精一茶具畚解之首

今古之茶具混清形及

名有圖号有解於是

稍分明

七十八番番實併書



凡例

○此書博聞強記の人（ついでに）附益せん（ついでに）ありわ（ついでに）次（ついでに）淺見（ついでに）鄙俗（ついでに）の人の漏  
と援（ついでに）らん（ついでに）が（ついでに）ま（ついでに）た（ついでに）に（ついでに）撰（ついでに）び（ついでに）られ（ついでに）た（ついでに）多岐（ついでに）の（ついでに）惑（ついでに）わ（ついでに）り（ついでに）て（ついでに）は（ついでに）一條（ついでに）の（ついでに）指（ついでに）き（ついでに）  
車（ついでに）との（ついでに）思（ついでに）ふ（ついでに）へ（ついでに）

○編中（ついでに）の（ついでに）圖（ついでに）す（ついでに）る（ついでに）は（ついでに）れ（ついでに）茶（ついでに）具（ついでに）一（ついでに）物（ついでに）に（ついでに）數（ついでに）十（ついでに）の（ついでに）異（ついでに）名（ついでに）あり（ついでに）も（ついでに）や（ついでに）り（ついでに）終（ついでに）と（ついでに）事（ついでに）  
の（ついでに）あ（ついでに）げ（ついでに）と（ついでに）彫（ついでに）（と）一物（ついでに）小（ついでに）三（ついでに）杯（ついでに）の（ついでに）と（ついでに）奉（ついでに）て（ついでに）傳（ついでに）へ（ついでに）る（ついでに）略（ついでに）一（ついでに）の（ついでに）

○陸羽（ついでに）字（ついでに）ハ（ついでに）鴻漸（ついでに）一（ついでに）の（ついでに）名（ついでに）疾（ついでに）字（ついでに）ハ（ついでに）季疵（ついでに）葉（ついでに）苧（ついでに）翁（ついでに）と（ついでに）稱（ついでに）一（ついでに）又（ついでに）竟陵（ついでに）  
子（ついでに）と（ついでに）号（ついでに）す（ついでに）盧（ついでに）仝（ついでに）別（ついでに）小（ついでに）玉（ついでに）川（ついでに）子（ついでに）と（ついでに）号（ついでに）す（ついでに）の（ついでに）數（ついでに）も（ついでに）編中（ついでに）に（ついでに）陸羽

世全<sup>よ</sup>の<sup>と</sup>もあ<sup>ら</sup>む<sup>に</sup>不孝<sup>ふこう</sup>の<sup>の</sup>人<sup>ひと</sup>の<sup>の</sup>耳<sup>みみ</sup>に<sup>は</sup>入<sup>り</sup>ま<sup>じ</sup>り<sup>ま</sup>す<sup>と</sup>多<sup>た</sup>隔<sup>たふ</sup>  
小<sup>こ</sup>見<sup>み</sup>て<sup>は</sup>ぬ<sup>い</sup>て<sup>は</sup>も<sup>も</sup>す<sup>す</sup>

予<sup>よ</sup>國<sup>くに</sup>字<sup>じ</sup>に<sup>は</sup>も<sup>も</sup>て<sup>て</sup>雅<sup>みやび</sup>言<sup>ことば</sup>う<sup>ま</sup>ば<sup>く</sup>の<sup>の</sup>蘭<sup>らん</sup>を<sup>は</sup>海<sup>うみ</sup>中<sup>なか</sup>に<sup>は</sup>  
平<sup>ひら</sup>俗<sup>ぞく</sup>活<sup>かつ</sup>と<sup>と</sup>綴<sup>つづ</sup>り<sup>ま</sup>す<sup>と</sup>有<sup>あ</sup>識<sup>し</sup>の<sup>の</sup>人<sup>ひと</sup>も<sup>も</sup>行<sup>な</sup>ま<sup>じ</sup>り<sup>ま</sup>す<sup>と</sup>  
人<sup>ひと</sup>の<sup>の</sup>漢<sup>かん</sup>や<sup>や</sup>も<sup>も</sup>漢<sup>かん</sup>の<sup>の</sup>思<sup>おも</sup>ひ<sup>ひ</sup>を<sup>は</sup>り<sup>り</sup>

○茶具<sup>たぐじ</sup>の<sup>の</sup>圖<sup>ず</sup>上<sup>じやう</sup>小<sup>せう</sup>縁<sup>えん</sup>○縁<sup>えん</sup>中<sup>ちゆう</sup>に<sup>に</sup>文<sup>ぶん</sup>字<sup>じ</sup>を<sup>を</sup>引<sup>ひ</sup>用<sup>よう</sup>書<sup>しょ</sup>目<sup>もく</sup>を<sup>を</sup>  
合<sup>あ</sup>せ<sup>せ</sup>て<sup>て</sup>其<sup>その</sup>出<sup>で</sup>所<sup>しよ</sup>と<sup>と</sup>名<sup>な</sup>づ<sup>づ</sup>け<sup>け</sup>る<sup>る</sup>

○編中<sup>へんちゆう</sup>茶<sup>ちや</sup>飲<sup>いん</sup>比<sup>ひ</sup>屋<sup>やく</sup>水<sup>すい</sup>の<sup>の</sup>ぶ<sup>ぶ</sup>と<sup>と</sup>は<sup>は</sup>考<sup>かう</sup>ふ<sup>ふ</sup>カ<sup>カ</sup>タ<sup>タ</sup>ナ<sup>ナ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>義<sup>ぎ</sup>訓<sup>くん</sup>と<sup>と</sup>施<sup>せ</sup>

け<sup>け</sup>も<sup>も</sup>或<sup>ある</sup>の<sup>の</sup>當<sup>あた</sup>或<sup>ある</sup>的<sup>てき</sup>的<sup>てき</sup>當<sup>あた</sup>の<sup>の</sup>當<sup>あた</sup>を<sup>を</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>も<sup>も</sup>わ<sup>わ</sup>れ<sup>れ</sup>を<sup>を</sup>も<sup>も</sup>不<sup>ふ</sup>孝<sup>こう</sup>人<sup>にん</sup>小<sup>せう</sup>が<sup>が</sup>な  
り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>文<sup>ぶん</sup>字<sup>じ</sup>と<sup>と</sup>考<sup>かう</sup>え<sup>え</sup>を<sup>を</sup>せん<sup>せん</sup>が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>か<sup>か</sup>ハ<sup>ハ</sup>サ<sup>サ</sup>リ<sup>リ</sup>と<sup>と</sup>輕<sup>かろ</sup>く<sup>く</sup>輕<sup>かろ</sup>く<sup>く</sup>し<sup>し</sup>き<sup>き</sup>あ<sup>あ</sup>ハ  
人<sup>ひと</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>て<sup>て</sup>も<sup>も</sup>比<sup>ひ</sup>一<sup>いつ</sup>部<sup>ぶ</sup>位<sup>ゐ</sup>の<sup>の</sup>會<sup>かい</sup>得<sup>とく</sup>して<sup>して</sup>あ<sup>あ</sup>を<sup>を</sup>茶<sup>ちや</sup>の<sup>の</sup>味<sup>あじ</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>べ  
し<sup>し</sup>ら<sup>ら</sup>り<sup>り</sup>

○編中<sup>へんちゆう</sup>小<sup>せう</sup>圓<sup>えん</sup>を<sup>を</sup>も<sup>も</sup>お<sup>お</sup>の<sup>の</sup>茶<sup>ちや</sup>を<sup>を</sup>三<sup>さん</sup>十<sup>じゆ</sup>條<sup>じょう</sup>も<sup>も</sup>○こ<sup>こ</sup>ん<sup>ん</sup>ろ<sup>ろ</sup>○す<sup>す</sup>み<sup>み</sup>ら<sup>ら</sup>り<sup>り</sup>○  
ま<sup>ま</sup>も<sup>も</sup>○ひ<sup>ひ</sup>ご<sup>ご</sup>ー○し<sup>し</sup>ご<sup>ご</sup>ー○だ<sup>だ</sup>ーま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>ち<sup>ち</sup>あ<sup>あ</sup>や<sup>や</sup>う<sup>う</sup>○ま<sup>ま</sup>つ<sup>つ</sup>ほ<sup>ほ</sup>ご<sup>ご</sup>  
○は<sup>は</sup>ら<sup>ら</sup>や<sup>や</sup>は<sup>は</sup>が<sup>が</sup>○ち<sup>ち</sup>や<sup>や</sup>こ<sup>こ</sup>ん<sup>ん</sup>○ち<sup>ち</sup>や<sup>や</sup>こ<sup>こ</sup>ん<sup>ん</sup>○こ<sup>こ</sup>け<sup>け</sup>ー○ち<sup>ち</sup>や<sup>や</sup>が<sup>が</sup>ハ  
○ち<sup>ち</sup>や<sup>や</sup>が<sup>が</sup>ん○こ<sup>こ</sup>ん<sup>ん</sup>ろ<sup>ろ</sup>だ<sup>だ</sup>い<sup>い</sup>お<sup>お</sup>上<sup>じやう</sup>の<sup>の</sup>十<sup>じゆ</sup>四<sup>し</sup>品<sup>ひん</sup>に<sup>に</sup>必<sup>かなら</sup>用<sup>もち</sup>の<sup>の</sup>茶<sup>ちや</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>

一もも開たりんちを茶飲もやうぬりしを爲らんくの要富  
 境界の後びく取捨もろと茶坊の本さしや杉ありく  
 も下巻の本文と熱漬玩味して俗境をゆると清意惟  
 趣と爲をば書の本ととす

引用書目

- |         |            |         |
|---------|------------|---------|
| ① 八茶經   | ② 八茶錄      | ③ 八茶譜   |
| ④ 八茶箋   | ⑤ 八茶疏      | ⑥ 八茶具圖黃 |
| ⑦ 八茶解   | ⑧ 八茶寮記     | ⑨ 八煎茶七類 |
| ⑩ 八茶集   | ⑪ 八石山齋茶具圖譜 |         |
| ⑫ 八漢書   | ⑬ 八杜氏全集    | ⑭ 八本艸   |
| ⑮ 八珠璣藪  | ⑯ 八酉陽雜俎    | ⑰ 八居家必用 |
| ⑱ 八居家必備 | ⑲ 八正字通     | ⑳ 八法苑珠林 |

① 八道生八歳

② 八王百谷雜字

③ 八羅照聞見録

④ 八正音

⑤ 八花史左編

⑥ 八老學菴筆記

⑦ 三三才圖會

⑧ 眞八真齋清事録

⑨ 八夢溪筆談

⑩ 會八會典

⑪ 典八典籍便覽

⑫ 類八類書叢要

⑬ 釋八釋氏要覽

⑭ 類八類體集

⑮ 聞八聞情偶奇

⑯ 寶八寶眼録

⑰ 行八行厨集

⑱ 清八清客寄語

木石居煎茶訣卷之上 茶具圖解

百信先生 口授

門人 藍光河村澄 筆受

○ 首おもひ茶ちや具ぐの圖解ずと類るるる先せん總と論ろんと下した卷まが小せ分べハハ川がわ  
用書目もちの照映ていすの便利べんりと覽者らん此こゝ人情にんじやう茶具ちやぐの形状けいじやう稱呼せうこに  
急いそなりなりととつと書肆しよが初はつ四し号ごう三さんの態たいととつとつと  
小こかハ偏次へんじととつと具服ぐふくの大方たうほうとつと小倒置せうたうぢの罪つみと賣うととまて  
たしと

名和  
こんろ

③ 小風爐とわけて其製

銅鉄泥の三通り作り

④ 小風爐より今用と

形は小圓もなごのれ

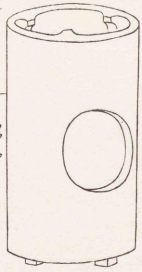
りて形状より深つても

明の後の製より按ずるに

⑤ 小風爐涼炉の唐音

⑥ ちと俗間小風爐の文字を

配あせり滑まると傳會の説し



③ 小風爐

名和  
こんろ

③ 小風爐とわけて其製

銅鉄泥の三通り作り

④ 小風爐より今用と

形は小圓もなごのれ

りて形状より深つても

明の後の製より按ずるに

⑤ ちと俗間小風爐の文字を

配あせり滑まると傳會の説し



④ 小風爐



和名  
もみとり

經つら小こ籠かご紅べに王おう小こ火か篝かご用もち小こ火か又また  
異こと用もち同おな形かたち推おし致か鳥とり府ふ備び炭すす斗とをもち用もち形かたち

鳥とり府ふ備び炭すす斗とをもち用もち形かたち推おし致か鳥とり府ふ備び炭すす斗とをもち用もち形かたち

これを模ま擬なす

用もち常じょう小こ

用もち道みち

和名  
せき

疏す小こ壑くわ木き炭たん

とくちかこしてし後のち火か斗とくく三さん口こう豆まめ

皆みなくくままねねいいろろのの長ながきき許ゆる氏しももとと

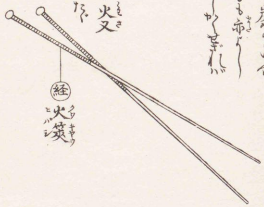


羅ら越ご炭たん

細こ小こ漏ろう斗と羅ら小こ越ご炭たん老らう小こ浮う炭たんをもち用もち形かたち消しょう炭たんのの形かたちてて用もちもも亦またりり  
たた水みづ消しょうてて炭たんをもち用もち形かたち消しょう炭たんのの形かたちてて用もちもも亦またりり  
御ご真まののかかととれれりり

和名  
いご

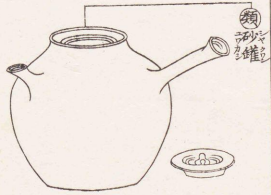
譜ふ小こ降か紅べに王おう小こ火か篝かご用もち小こ火か又また  
ななをもち用もち形かたち消しょう炭たんのの形かたちてて用もちもも亦またりり  
其その用もち小こ便べん打うちをもち用もち形かたち消しょう炭たんのの形かたちてて用もちもも亦またりり



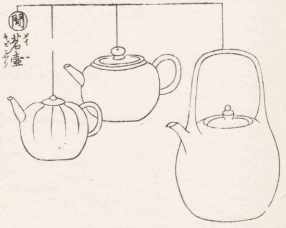
經つら火か箕み

和名マ  
名(い)テ

杜 小急須 疏 小茶注 融注湯 鈿  
 寶 小茗瓶 會 小茶瓶 間 小茗壺  
 類 小砂罐 眞 小茶壺 名(い)テ  
 名(い)テの形もあれども明(い)浮  
 との山でユワカとキビヤウも素  
 いら一物うると三四十年未(い)純  
 茶ふりてよりユワカとキビ  
 シヤウと二物のとくしくもや

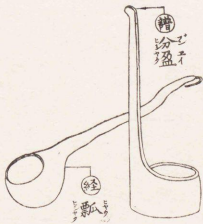


俗習よりうりぬ右小茶注 数術  
 及び小圓すかのみも数十百  
 種わかへれど互ひ小通称  
 して二物とよみたるは(い)小  
 急尾燒の稱りりキビシヤウ  
 の和名は全(い)く(い)ま(い)や  
 うるべし



和  
ひやく

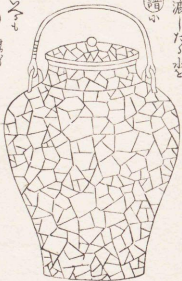
經こ又また藏くら物ものもよびて  
 糸いとのめぐううとて造つくり  
 或あるハ梨なしの本もとも作つくりし  
 わりわりり 經こ小こ合あ盈えい 北きた小こ水みづ  
 杓しやくとてとてて 或あるハ竹たけの節ふしを研けんと  
 底そこより造つくるものなり



經  
瓢ひょう

系  
しんぎ

經こ小こ熱ねつ孟めいとわの漉こしたる水みづを  
 榨しぼりしよとの名なをうりり 經こ  
 圓まるす雲屯うんハ則すなはちちに  
 圓まるすものとしてして 經こ  
 便べんつらとと旨あじすもの  
 かなかなな 備び小こ兩耳りやうじ  
 けけとてと 經こ氷こほり提てい點てんとてと  
 又また雲屯うんの類るいをううりり 經こ小こ水みづ方かたとわの  
 四角しやうかくの水みづをううりり



經  
雲屯うん

和名  
くわいりょう

疎水（石） 小水鏡を以て圓の  
後も成ハ上手式銅鏡 疎水（石） 疎水（石） 疎水（石）  
銅鏡も亦古きと云ふ

和名  
くわいりょう

經（石） 小交床（石） 静沸  
ふとりの竹根成蓮房の  
類も亦製すむ天然り

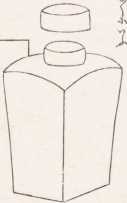


清致と存せり

和名  
はやくわ

諸（石） 小注春備（石） 茶盆（石） 小深口磁合  
石（石） 小茶心壺 茶葉罐（石） 小つ

乃（石） 小ハヤツボより近來  
阿蘭陀産の水薬壺（石） キヤ  
マンのハヤツボの用（石） 小適も  
そのわり茶と貯めたる  
して色味も亦夏せん



和  
ちやこん

録 小茶鍾 (圓) 小茶甌 (正) 小茶杯 其餘  
諸書の茶蓋 茶盤 吸香つと種々の名有り

て 大小形紙一様 (ついでに) 正の形もつとどの  
稱も通下してヤワとツマナリ

和  
ちやこん

和  
ちやこん

録 小茶壺 (請) 小納敷 (圓) 小漆雕 祝開き  
之り今俗間小用少 高茶壺 (圓) 全漆雕  
祝開と模せしもの (て) 小圓せん今の煎  
茶 束小用ウ 船米新渡の形して (ついでに) 漆の

とのしちん 銅 錫磁 (多) のわらもあれ  
ど (圓) いたの古色と存せしもの 近今の船米小  
を徳くナリ

録 小茶壺 (請) 小納敷 (圓) 小漆雕 祝開き  
之り今俗間小用少 高茶壺 (圓) 全漆雕  
祝開と模せしもの (て) 小圓せん今の煎  
茶 束小用ウ 船米新渡の形して (ついでに) 漆の

和  
ちやこん

録 小茶壺 (請) 小納敷 (圓) 小漆雕 祝開き  
之り今俗間小用少 高茶壺 (圓) 全漆雕  
祝開と模せしもの (て) 小圓せん今の煎  
茶 束小用ウ 船米新渡の形して (ついでに) 漆の

録 小茶壺 (請) 小納敷 (圓) 小漆雕 祝開き  
之り今俗間小用少 高茶壺 (圓) 全漆雕  
祝開と模せしもの (て) 小圓せん今の煎  
茶 束小用ウ 船米新渡の形して (ついでに) 漆の

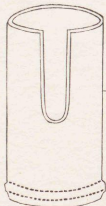
録 小茶壺 (請) 小納敷 (圓) 小漆雕 祝開き  
之り今俗間小用少 高茶壺 (圓) 全漆雕  
祝開と模せしもの (て) 小圓せん今の煎  
茶 束小用ウ 船米新渡の形して (ついでに) 漆の

録 小茶壺 (請) 小納敷 (圓) 小漆雕 祝開き  
之り今俗間小用少 高茶壺 (圓) 全漆雕  
祝開と模せしもの (て) 小圓せん今の煎  
茶 束小用ウ 船米新渡の形して (ついでに) 漆の

録 小茶壺 (請) 小納敷 (圓) 小漆雕 祝開き  
之り今俗間小用少 高茶壺 (圓) 全漆雕  
祝開と模せしもの (て) 小圓せん今の煎  
茶 束小用ウ 船米新渡の形して (ついでに) 漆の

録 小茶壺 (請) 小納敷 (圓) 小漆雕 祝開き  
之り今俗間小用少 高茶壺 (圓) 全漆雕  
祝開と模せしもの (て) 小圓せん今の煎  
茶 束小用ウ 船米新渡の形して (ついでに) 漆の

録 小茶壺 (請) 小納敷 (圓) 小漆雕 祝開き  
之り今俗間小用少 高茶壺 (圓) 全漆雕  
祝開と模せしもの (て) 小圓せん今の煎  
茶 束小用ウ 船米新渡の形して (ついでに) 漆の



茶壺  
茶蓋  
茶室



茶鍾  
茶甌



茶盤  
茶子

名和  
らやせん

經 小仲 小受汗 小拭巾 石 小蓋布

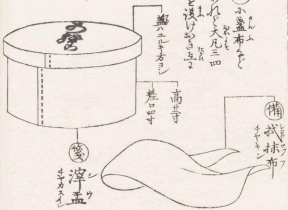
寸巾の麻と用うのうと切り分け二と浸け置き  
用うと茶徑のちと入

名和  
あまのれ

經 小洋方とつ六四角小櫛

わたの布よりちさらまで方とひ

うりこがより自ら可餐豆手と題命



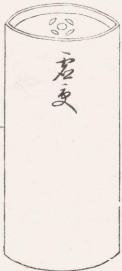
名和  
こけり

經 小洋方とわらんれ

も四角ケれバツソウ

漢 小建水とわらんれ

の形も又銅磁を  
曲物小もやうぬ格や  
てまた子と自潔う

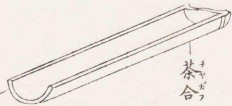


高き寺  
差口三寸八ト

漢  
建水

和  
ちやん

漢製漢名も小ケ一揆すにももこ  
 かの節く製一自銚するもの茶  
 合の二字を音讀して別和名も  
 竹の節と一ツくけて二別ちやん  
 多しと名ハ節竹をも用いす  
 て六七寸ありと一尺ハ茶任  
 則ちハ茶漉ハ執権とあり茶と入  
 時多少とく器ハ此茶合と別ハ  
 執権と名も可なり

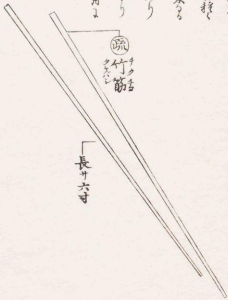


長サ七寸

茶合

和  
たけ

小竹夾とあり湯と  
 の水くもこれと製はる  
 く両頭と混りて最とらり  
 今の竹筋ハセウナ  
 茶漉とくも此の目  
 借ものこのり



長サ六寸

和名やびん

④小根盤 ③小茶盤 ②茶盃

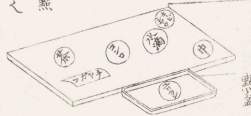
ツルギヤホンつるぎやほんの鉢はちとして形かたち一いつツルギ  
近ちか未み紅毛産べい毛産のブリキブリキとツルギヤホンつるぎやほんと表  
せらヤホンやほん様のもの數かず亦またあり飛と難がた  
うらへ用もちうらふ足あしまろ又またコンロこんろの前まへ  
小置こまとして煮點にちん用もちうら。この煮點にちん  
盆ぼんは持もち専とくらヤホンやほんと表あらわせハ  
盆ぼんを盆ぼんともツルギヤホンつるぎやほん

點茶板

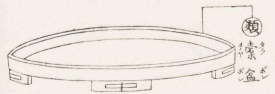
和名一 ④小具列

一片版耳いちぺんぱんみみとわりて諸品物しよひんぶつを並ならべ  
置おきわけて脚あしもわきを此方こなたぞ  
と表あらわす上うへに上かみとして煮點にちんもくろ  
り板いたの折ひりも抑おさめて便利べんりか  
似にたり脚あしわらも短みじかくハ一いつ寸すん法ぽう  
茶寮ちせうの廣ひろさと椀わんさふらとツルギも  
大おほ凡ふんと長なが三尺さんせき巾きん一尺いつせき二三寸にさんすんと厚あつさま  
ト一いつ石いし小茶器板こちやくばんとあるものおのつて點  
茶板ちせうばんといふが假かりりかゆふとこの柄かたちく

點茶版



點茶盆



和名 煮點盆

予よ煮點にちんの時とき小  
茶ち席せきの國くにのこ  
清きよ具ぐと位置ち置ちえ凡ふん  
ど思おもも時宜ときな  
かよりて圓まるの盆ぼん  
と一いつ定さだまる  
かよりけ又また  
更さらに板いたを用もち  
ひぬきもつら  
活くわく用もちの籠かご造ぞう  
む肝かん要ようより

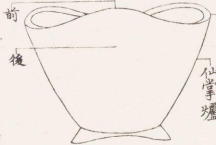


和名 せんりやう

煎茶竈丸(煎茶竈丸) 煎茶竈丸をとり今のワロと稱するものありて其の模様に據先匠臨利休華風分をワロと稱してて厭とつゝこのワロと云ひしはより俗習年々よりいふやうにして今小園を云ふこのものとてセシヤナロと稱するなり茶竈丸及び茶竈丸も其製ありて今も手自の運泥炒と遠くて假く茶竈丸と稱すやれと座右も其意同く候て臨時の香はまうに供す自命しく仙掌爐と云ふ

高テ六寸半ト 差ハ八寸半ト

仙掌爐



和名 同前

小園を云ふ此等の物にせし漢製のもの御座りて遠くを考にドンドンとけさる臨時の淹茶は詩需の文字及び足の立前三後三の對窓のせしやうにて古製の本も

龍瓜爐

高サ六寸 差口六寸



わは今自命 龍瓜爐を稱し仙掌爐より座右手生の供具といふ仙掌炒ふはゴトクと用以龍瓜炒ふハゴトクと省きぬ銀瓶と云ふ一決純む思

和名  
ひざぢけ

珠たまご吹筒ふきぶち或ハ火管かかんと  
りてろしとヒマタケ  
の拵しらべなり

本ほんはとゞき

漢製漢名もに

從事じゆんじゆんの用とあり  
圓まるいの扇あふぎの用と強つよく三さんと扇あふぎ  
羽はね促せう事じゆんと吹ふ

本ほん吹ふ火か筒ぶち  
とヒマタケ



羽はね促せう事じゆん

和名  
かきう

用もち小こ逸い火か斗と

かどついで火と運こ火か斗と  
かきう煎茶せんぢや家いえ小こ提ひり  
て小こささととと吹ふ  
予よが細こて圓まるいのこと  
ぬぬと作つくららハ上うへの長なが  
三寸中さんすんちゆう二寸小にすんちゆう豆まめらぬぬ  
のこ器がととり



火斗  
かきう

涼布

換濯布

並ひ小漢名漢製和名和製  
こう一是予さうかんが後ご用もち  
ろの所ところかしてつとも美色布  
と用もちひハヤキニ珍めづりし  
ぬとぬととより

涼布ハワカシの子こ乳ち袋ぶくろさぬ毛  
とて袴はかまの縁ゆかりの腹はら中ちゆうまぐ  
換濯布ハ方かたニ三口くちの熱あつさと動うごえん  
とすすり時とき是こゝと三さん口くちと抱かかき陰かげ涼すずか  
もり常とこ小座こざの縁ゆかりハ長なが三さん寸すんなり

涼布

三寸五分  
四方

換濯布

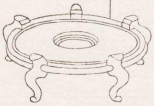
中  
八九寸

長一尺五寸

和  
名  
涼  
布

漢製かんせい小せう座ざのわ色いろ古ふるくハ  
今いま近ちか來きの製せいりて其その名なの  
出い所ところと云いふは次つぎ石いし小せう燒や座ざと云い  
るは其その別わかれがコこンコンロロダイダイウウ久く一いつ刻こく  
ナリ風ふう炉ろ臺たい涼すず炉ろ臺たいと云い  
字じと記しすはもも苗なまり

風爐基臺  
コンロダイ



名和  
しょうり

解 小時水甕 (額) 小水缸

なとんり ちち水厨ふまき

て客前に用ふものあり

大小形状も人の心まうり

ださわり

○扱もに扱方の茶家ふ

・ツヤとろきまのど別が株

へもわうーだくば甕と茶

香の別ふまをのしおもろ

大ふりやうり水など

水甕  
しょうり



ふんより 予ハバヤウ ちち竹原ふと持へこれと水厨と命ず水厨中諸  
器の價銀いんくへの心へ小まふよきなり

名和  
しょうり

釋 小水甕 (法) 小流袋

なとんり



水甕  
しょうり

和名  
だいす

會ちうご小卓櫃せうしやくことらふん

小卓せうしやくすかぢすかぢのものと

すかぢすかぢ若狭わかざものものと

ふすふす櫛しのふのふの間ま

板いた或ある禁きん祭まつりふふふふり

一



和名  
たごかん

清せい小烟盤せうえんぱん或ある芬盤ぶんぱんとらふんとのふん

ありふりしる近年しんねん國くにのやうやうものものとと船景せんけい

ざりざりむむをを國くによりよりしてして火籠ひなごとと奉ほうんんとと下したとと下したとと下した

ものものとと燗かん壺かのの別べつのの月げつ州しゅう置おきととふふてて火籠ひなご

ももちちふふりり前まへ御ご烟盤えんぱんのの四字しじとと火籠ひなごのの字じ

一いちまま蓋おほ字じとと流ながりりけけのの他た用ようももととれれぬぬて

ももままりり予よのの患うれととわわくく勝かららせせ火籠ひなごとと燗かん壺か

とと國くにののううけけててたた茶ちや巻まきにに供くわす

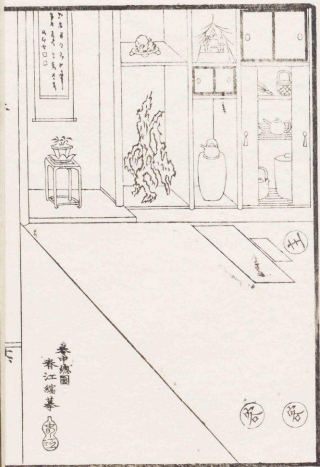
前御烟盤

前まへ御ご烟盤えんぱんととらふん

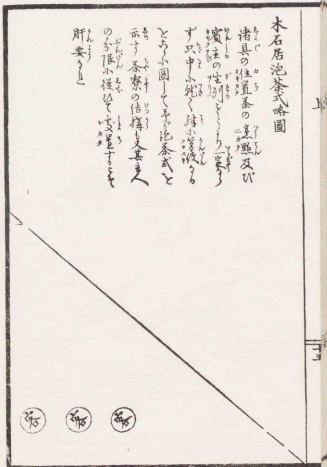


木石居泡茶式略圖

諸具の位置茶の位置及以  
 續注の性別とてり(茶)  
 ず只中へ銘く時小波う  
 とろ小圓して茶泡茶式と  
 示す茶寮の情様は其主人  
 の台限不徒ゆて文置すこと  
 肝要と



茶中機圖  
 林江縮基  
 (茶) (石) (居)



○以上小園解り、諸君及び以予が煎茶寮本石居の略園小ぶらぐて  
皆杉ふ膠いぢもの見けんととて、いぢ草くさかゝる色いろ予ととり大威たいいの道みちうねれ  
諸君しよぬららりて取捨しよ加劑かじと旨あじくすすて、いぢ飲いん菓かが草くさ割わりかうの  
後のち末のちの子産この園のち色いろとまのい

本石居煎茶訣卷之上終

愛 知 県



1105108315

791

22

1-1